

1. 総括

事務スタッフ7名（企画・総務・人事・広報・経理・購買・施設・設備管理）に健診事業事務スタッフ3名の10名体制で臨んだ。経営的には8年ぶりに赤字転落となり、少子高齢化、人口減少による入院患者の減少と消費税増税の影響が増収戦略を上回る結果となった。早急な改善策が必要と判断し、病床削減による新規事業のシミュレーションを行った。

3. 2015年度採用状況（2015年4月1日採用）

職種	受験者数	採用数
看護師	9	9
理学療法士	6	2
作業療法士	7	2
言語聴覚士	2	1
管理栄養士	12	1
薬剤師	1	1
MSW	5	1
計	42	17

※受験者数は書類選考後の人数

2. 職員数推移

職 種	2010年 3月末	2011年 3月末	2012年 3月末	2013年 3月末	2014年 3月末	2015年 3月末
医師	11	12	14	13	12	13
看護師・准看	74	74	82	81	83	85
看護助手	12	13	15	20	22	23
薬剤師	4	4	4	5	6	6
臨床検査技師	7	7	9	8	10	9
診療放射線技師	4	4	5	5	6	7
理学療法士	9	9	11	14	17	17
作業療法士	8	7	10	13	15	17
言語聴覚士	3	3	2	4	5	5
管理栄養士	3	3	3	3	3	4
MSW	2	2	2	3	3	3
事務員	13	15	19	19	18	28
労務員	1	2	1	1	1	1
介護支援相談員					1	1
清掃員					1	7
合 計	151	155	177	189	203	226

※医師は当院所属で熊本病院への派遣医師、熊本病院からの派遣常勤医師含む

※委託職員除く

※ME（臨床工学技師）は熊本病院からの派遣

4. 階層別研修会

研修会名	開催予定日	対 象	目 的
新入職員 研修会	4月1日(火) 2日(水)	新入職員 (20人)	医療人、済生会職員としての基本的事項を身につける
係長・主任研修会	11月22日(土)	係長・主任 (20人)	病院・自部署の課題を把握し、その解決に向けた具体的取組みを検討する
幹部・リーダー研修会	12月20日(土)	幹部・医師・所属長 (23人)	次年度行動計画を策定する。

5. OFF-JT 研修会

研修会名	開催日	参加者数
メンタルヘルス基礎講座	5月11日(月)	12名 看護師6名、理学療法士3名、作業療法士4名
ポジティブシンキング	6月8日(日)	12名 看護師8名、リハビリ3名、事務1名
コーチング研修	7月13日(日)	20名 看護師8名、薬剤師1名、検査1名、リハビリ5名、管理栄養士1名、事務4名
リーダーシップ研修	8月10日(日)	22名 看護師11名、リハビリ4名、事務5名、検査1名、放射線1名

6. 2014年度の取り組み

(1) 人材確保の強化

人材確保対策室を設置し、人員確保・離職防止について具体策を講じた。

- ①2015年9月より九州看護福祉大学看護学生の臨地実習受け入れを開始予定。
- ②済生会横浜市南部病院より研修医の受け入れを開始
- ③研修医受入環境強化のため、待機棟を改修し、研修医宿舎2室を整備(2015.4完了予定)
- ④病院ホームページに看護部のコンテンツを追加
- ⑤職員紹介報酬制度を開始し、1名の紹介が採用に繋がった。
- ⑥病院見学会を2回実施(12名参加)
- ⑦新たに脳卒中リハビリテーション看護、感染管理の認定看護師を各1名取得

(2) 多職種協働体制の強化

グループウェアを活用したEラーニングでは脳卒中に引き続き、心疾患を実施中。

パス委員会では大腸ポリペックのパスを3月より試行中
QC活動では3サークルにて活動し2月に発表会を行った。

(3) 社会貢献の強化

- ①パールラインマラソンの当日支援(30名)およびコース清掃(90名)
- ②出前健康講座の開催(87回)
- ③健康フェスタの開催(850名の参加)

(4) 運営実績

新入院数が1,607名(前年▲87名)と大きく落ち込んだ。第一四半期で32,593千円の赤字を計上し、これを最後まで挽回できなかった。

年度を通しての患者数減は地域の人口減少の影響と言わざるえないが、第一四半期の赤字の原因は診療報酬改定による亜急性から地域包括への病床の転換、および電子カルテの更新(6月)という内部要因があると推察している。また費用面においては、やはり消費税(損税)の影響は否めない。

いずれにせよ、総職員数は増えており、労働生産性の向上は必須である。病床の一部を減らし、通所リハビリなど新規事業で補完する等の対策を既にシミュレーション中である。

(5) 経営総括

新入院数の減少、それに伴う手術数、検査数の減少が影響し、経常収支が▲17,828千円と8年ぶりの赤字決算となった。但し、特別交付税、各種補助金(耐震診断、救急輪番他)等の特別収益により、最終的な当期利益(収支差額)は86,162千円の黒字を確保できた。

少子高齢化に伴う地域の人口減少の影響は今後も続くため、減少する入院収益の補完を目的に1日平均外来数を増やし、健診事業も強化してきたが、今後は現在行っている健診事業や訪問リハビリ、介護予防事業を更に強化し、通所リハビリステーションの開設など在宅支援系の新規事業も視野に入れた中期戦略を確実に実行し2015年度は経常収支での黒字を確保したい。

7. 2015年度行動計画策定

基本方針を「現有資源の最大活用」とした。高齢化・人口減少に伴う入院収益の減少を補完すべく外来部門の強化、健診部門の強化を図ると共に、新たな戦略展開として、病床の一部を削減、そのスペースを利用して通所リハビリステーション(定員40)の開設にむけ準備を行う。

平成27年度 基本運営方針 “現有資源の最大活用”

1. 外来部門の強化
休日、午後枠の活用、健診業務の拡大
2. 病床の有効活用
病床管理の一元化→入退院管理の強化
3. 病床再編→新規事業
介護予防事業の充実+通所リハビリの新設検討
4. 休止診療の再開
脳外科手術、腹膜透析など